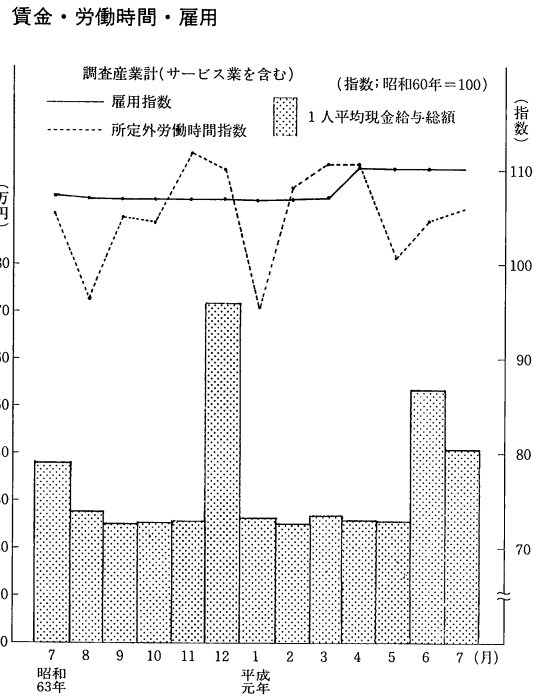
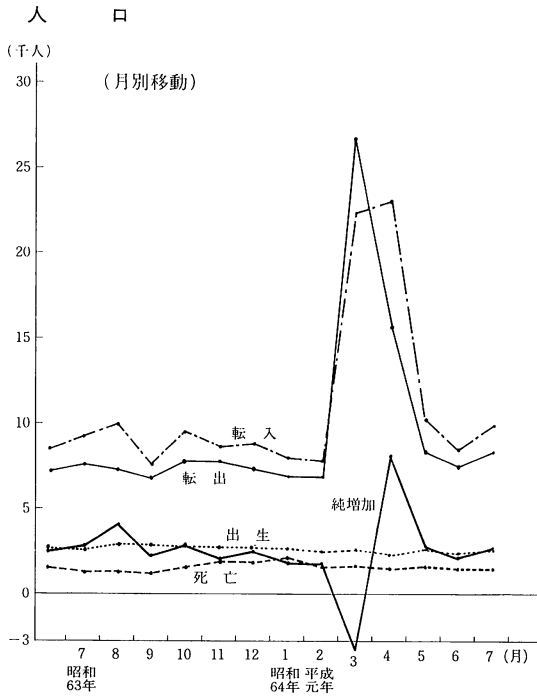
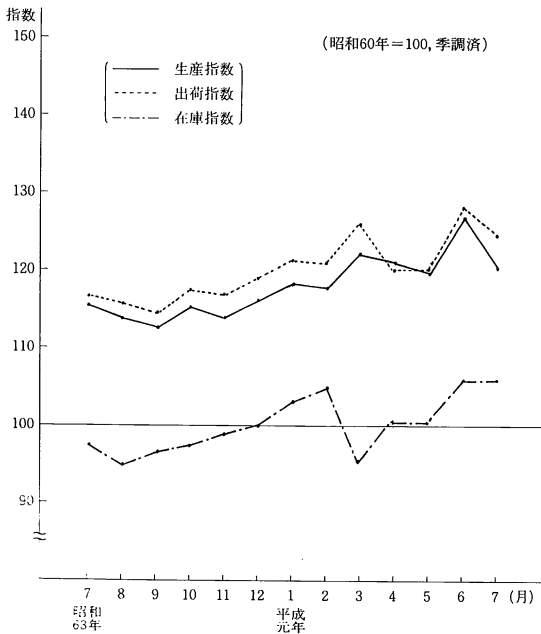


●今月の主な動き

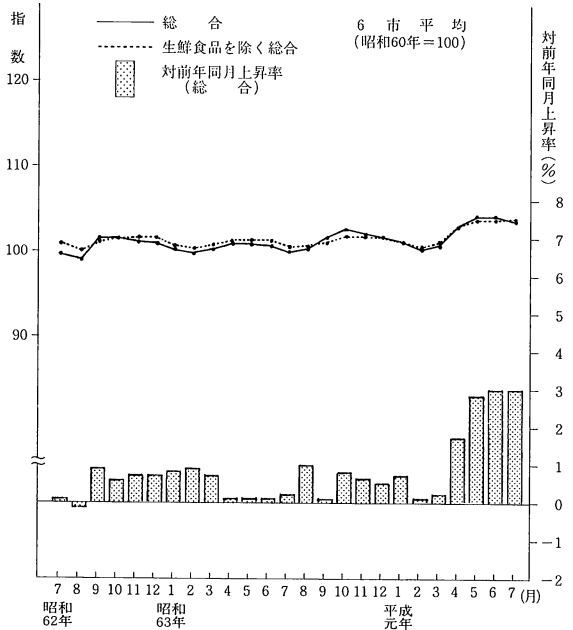
今月の主な動き



鉱工業指数(生産・出荷・在庫)



消費者物価指数



主な動きのあらまし……………企画部統計課

■人口(8月1日)

本県の人口は、7月中に2,526人増加し、8月1日現在で2,820,352人(男1,405,945人、女1,414,407人)となった。

内訳は、自然動態で1,057人(出生2,436人、死亡1,379人)増加し、社会動態で1,469人(転入9,653人、転出8,184人)増加した。対前年同月と比べると28,962人(1.04%)の

増加である。

市町村別では、増加が15市49町村、減少が4市14町村、増減なしが1市5町村である。

世帯数についても7月中に1,079世帯増加し812,282世帯となった。

■賃金・労働時間・雇用(7月)

1. 平均賃金の推移

7月の現金給与総額は、前月に引き続いて賞与等の支給月であるため、調査産業計で408,678円、前年同月比6.8%増(前月は7.1%増)であった。このうちきまって支給する給与は257,627円、前年同月比3.3%増(前月は4.4%増)であり、賞与等の特別に支払われた給与は151,051円で、前年同月比13.3%増であった。また、きまって支給する給与のうち、所定内給与は227,402円で、前年同月比3.2%増(前月は4.3%増)であり、超過労働給与は30,225円で前年同月比4.1%増であった。

なお、物価上昇分を差し引いた実質賃金は、前年同月比

3.6%増であった。

2. 労働時間

7月の総実労働時間は182.6時間、前年同月比1.4%減(前月は0.4%減)であった。このうち所定内労働時間は163.7時間で、前年同月比1.6%減(前月は0.4%減)と本月1月から減少が続いている。

また、所定外労働時間は、調査産業計で18.9時間、前年同月比0.6%増(前月はもちあい)であった。

3. 雇用の動き

7月の常用雇用の動きを前年同月比によってみると2.9%増(前月は2.7%増)であった。

■鉱工業指数<生産・出荷・在庫>(7月分)

本県における平成元年7月の“鉱工業指数”(昭和60年=100)は、季節調整済指数で、生産が120.7、出荷が124.8、在庫が106.0で、前月比は、生産が△5.2%の低下、出荷が△3.2%の低下、在庫が0.2%の上昇であった。前年同月比(原指数)は、生産が4.1%の上昇、出荷が6.4%の上昇、在庫が9.0%の上昇であった。

業種別に前月比をみると生産では、鉄鋼業、電気機械工業、鉱業等が上昇し、化学工業、石油・石炭製品工業、一般機械工業等が低下した。出荷では、電気機械工業、繊維工業、鉱業等が上昇し、化学工業、一般機械工業、石油・

石炭製品工業等が低下した。在庫では、輸送機械工業、その他工業、鉱業等が上昇し、精密機械工業、繊維工業、化学工業等が低下した。

特殊分類別にみると生産では、非耐久消費財、耐久消費財等のすべての財が低下した。出荷では、耐久消費財、建設財等が上昇し、その他用生産財、非耐久消費財が低下した。在庫では、建設財、鉱工業用生産財、その他用生産財等のすべての財が上昇し、その他用生産財、耐久消費財等が低下した。

■消費者物価指数(7月)

平成元年7月の茨城県消費者物価指数(6市平均)は、総合で103.3(昭和60年=100)となり、前月比△0.2%の下落、前年同月比3.4%の上昇となった。

今月上がった主な項目……果物13.7%、飲料0.8%

今月下がった主な項目……魚介類△5.2%、シャツ・下着△3.7%、衣料△3.6%、野菜・海藻△1.4%

生鮮食品を除く総合は103.4となり、前月比△0.3%の下落、前年同月比2.8%の上昇となった。

費目別指数

(昭和60年=100)

区 分	指数	上昇率(%)		区 分	指数	上昇率(%)	
		対前月	対前年同月			対前月	対前年同月
総 合	103.3	△0.2	3.4	保健医療	105.8	△0.1	2.6
食 料	102.3	0.0	4.6	交通通信	101.9	0.1	2.1
住 居	111.8	0.3	4.0	教 育	116.8	0.0	3.2
光熱・水道	87.4	0.0	△0.6	教養娯楽	106.1	△0.1	4.8
家具・家事用品	100.1	0.0	1.0	諸 雑 費	104.9	0.2	1.8
被服及び履物	104.8	△2.8	3.1	生鮮食品を除く総合	103.4	△0.3	2.8